

プロフィール

～第2部 パネリスト～

◆山口 香 (Kaori YAMAGUCHI)



東京都・豊島区出身。筑波大学 体育系 准教授、JOC 理事、JOC 女性スポーツ専門部会 部会長
小学校1年生より柔道を始める。「女はダメ」と道場の先生に反対されるも、柔道への熱意を認められ、男子と一緒に練習を開始する。週6日練習する中で、男の子にも負けないほどの力をつける。1978年、全日本選抜柔道女子体重別選手権大会が始まり、中学2年生にして初代チャンピオンとなる。その後、全日本体重別選手権大会では10連覇（1978～1987年）を果たした。1980年第1回世界柔道選手権大会において銀メダル獲得、1984年第3回世界選手権大会では、日本人女性柔道家として史上初の金メダルを獲得。1988年ソウルオリンピック（当時は公開競技）柔道52kg級で銅メダルを獲得。女性柔道のパイオニアとして牽引し続け、「女姿三四郎」と称賛される。1989年筑波大学大学院体育学修士課程を修了後、同年現役を引退。1993年に日本オリンピック委員会のスポーツ指導者海外研修事業にて、1年間イギリスに留学。武蔵大学助教授・教授を経て、2008年より筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授。現在は、優れた女性が活かされる組織体制を整えるべく、柔道界のみならず幅広い活動を行う。モットー（好きな言葉）：意志あれば道あり

◆知念 令子 (Reiko CHINEN)



東京都新宿区出身。JOC 国際人養成事業アシスタントディレクター、国際ウエイトリフティング連盟技術委員、アジアウエイトリフティング連盟理事、日本ウエイトリフティング協会理事。
大学まではソフトボール選手。1986年（大学4年）よりウエイトリフティングへ転向するも、女子競技は1987年世界選手権から開始されたため女子選手が少なく、男子選手と一緒に練習に励む。全日本ウエイトリフティング選手権大会で3位（1989年、1990年）、国体記念杯女子ウエイトリフティング競技会（一般の部）で優勝（1987年、1988年）。学習院大学文学部英米学科卒業後、日本体育大学大学院へ進学。大学院在学中より、日本ウエイトリフティング協会にて普及委員としての活動を始める。1988年より、コーチとして世界選手権および世界ジュニア選手権大会の4大会に帯同。1993年より国際ウエイトリフティング連盟の国際審判員として活動し、2003年よりチャイニーズタイペイ、マレーシア、イラン、イスラエル、ベラルーシなどアジア・ヨーロッパ各国で審判講習会講師を勤める。また2008年から2009年には、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会国際部門マネージャーとして、アフリカ・ヨーロッパ・オセアニア等において活動を行う。現在は、前述のウエイトリフティング競技の国際連盟と日本を繋ぐ役割を担う他、JOC 国際人養成事業アシスタントディレクターとして、海外情勢、スポーツ政治に関する情報を取り込みながら、各競技団体に通用する国際人養成のためのプログラムの企画・運営を行う。また2020年東京オリンピック・パラリンピック招致委員会にアドバイスする立場でもある。母・妻としての顔を持ちながら、国内外を飛び回り、活躍を続ける。
モットー（好きな言葉）：相手の国民性に合わせて柔軟に対応せよ。日本人の感覚で押し通してはいけない。

◆斗澤 由香子 (Yukako TOZAWA)



神奈川県・藤沢市出身。札幌リゾート&スポーツ専門学校勤務。NCCP(National Coaching Certification Program)level5(freestyle ski)。
家族の影響で5歳よりスキーを始め、小学生のときにフリースタイルスキーと出会う。大学進学後に本格的にスキー（バレエ種目）のトレーニングを始め、その後国際大会に出場する。日本大学芸術学部放送学科卒業後、全日本フリースタイルスキー選手権大会アクロ種目（1995年まではバレエ）で7回優勝（1989年～1996年）し、長年に渡り、トップアスリートとして君臨する。公開競技として行われた1992年第16回冬季オリンピック競技会アルペールビル大会では、バレエ11位。フリースタイルスキー世界選手権大会長野大会アクロ種目4位（1997年）、スイス・メイリンゲン大会アクロ種目4位（1999年）と、記録に残る成績を残す（2001年を最後にアクロ種目は姿を消す）。
引退後は、筑波大学大学院修士課程体育研究科へ進学し、2001年3月修了（体育学修士）。その後、JOC スポーツ指導者海外研修参加し、カナダ National Coaching Institute Victoria 校にてカナダのコーチ育成法およびその指導法について学び、実際のコーチング研修は現地の Mt. Washington Freestyle Ski Team にて実施。研修中に、指導者資格最高峰の NCCP(National Coaching Certification Program)level5(freestyle ski)取得。世界レベルの技術の導入・共有、一貫指導システムの構築、コーチ教育制度の充実等、カナダのコーチング環境については造詣が深い。モットー（好きな言葉）：Practice makes perfect. Faith in your heart.

プロフィール

◆沖 美穂 (Miho OKI)

北海道・清水町出身。(財)日本自転車競技連盟強化アドバイザー (High Performance Adviser)、(財)JKAアドバイザー。



7歳よりスピードスケートを始め、国際大会等に出場。22歳で自転車競技に転向し、全日本自転車競技選手権大会ロード・レースで11連覇を達成(1998年～2008年)。2001年、日本人女性として初めて欧州プロチームと契約を結び、8年に渡りフランス、オランダ、イタリアにてプロレーサーとして活躍した。2004年のワールドカップロードレース第1戦ジューロン大会では3位に入り、アジア人として初めて、UCI女子ロードワールドカップ対象レースの表彰台に立った。また、オリンピックには、個人ロードレースでシドニー、アテネ、北京の3大会に出場した。

引退後は、JOCスポーツ指導者海外研修に参加し、イタリア女子プロチームにてコーチ研修を行い、研修中にイタリア自転車競技コーチライセンスを取得。帰国後は、(財)日本自転車競技連盟の強化アドバイザー (High Performance Adviser)として国内外の大会へ帯同し、選手とコーチ、また海外と日本を繋ぐ役割を担っている。また、(財)JKA(競輪とオートレースの振興法人)とアドバイザー契約を結び、日本競輪学校で育成が開始された女子競輪選手へのアドバイスにもあたる。

モットー(好きな言葉) : Straight! The future is believed because I am believed.

～第2部 コーディネーター～

◆山口 理恵子 (Rieko YAMAGUCHI, Ph.D.)

群馬県出身。城西大学経営学部 助教、順天堂大学マルチサポート事業「女性リーダーシップ開発プロジェクト」リーダー。

筑波大学大学院修士課程(スポーツ心理学専攻)終了(1999年)後、1年間渡米し、「女性学」と出会う。帰国後、城西国際大学大学院博士後期課程で比較ジェンダー論を専攻、近代スポーツにおける性の政治学について研究、2007年に博士号取得(比較文化)。2008年4月より現職。女性学・ジェンダー論、スポーツ文化論に関する講義、ゼミを担当している。現在は、カリフォルニア州立大学リバーサイド校にて客員研究員。

2004年より埼玉、東京の自治体女性相談員を務め、2006年より毎夏、スポーツ界の暴力やセクシュアル・ハラスメント被害者のホットラインを開設。著書に「女性アスリート・コーチングブック」(大修館書店)共著、「知って欲しい女性とスポーツ」(サンウェイ出版)共著などがある。

